



## 地域の自然や歴史を子どもたちに伝えるために

宮田ほたるの里を守る会が最も大切に行っていることは、ホタルの保護活動を通じて「子どもたちに自然の大切さを伝える」ということ。  
子どもたちに身近にある自然や地域への理解を深めてもらえるよう、工夫を凝らした活動が行われている。



## ホタルを通じて伝える身近な自然の大切さ

宮田ほたるの里を守る会

ホタルの保護活動を通じて、子どもたちへ自然の大切さを伝えている「宮田ほたるの里を守る会」の地域づくりの現場を紹介します。

### 一年を通じた環境整備

宮田ほたるの里を守る会の活動拠点は、渋川市赤城町宮田地区にある。のどかな田園風景の中に流れる約400mの水路には、ゲンジボタルとヘイケボタルの2種類のホタルが生息する。ホタルは人家に近い水のきれいな小川などに棲み、幼虫の間は水中で約10ヶ月を過ごし、



写真上：春から秋にかけて、会員一同で水路周辺の整備を行う  
写真下：いくつもの水芭蕉が咲くホタル池

4月下旬〜5月下旬にかけて上陸し、6月初旬頃に飛び始める。同会では、一年を通じて水路の砂上げや下草刈りを行い、ホタルが生息しやすい環境を整えるほか、水路にカボチャやジャガイモなどの野菜を沈め、ホタルの幼虫の餌であるカワニナの数を増やすための工夫も行っている。

### 宮田地区に残る貴重な自然

宮田ほたるの里には、ヘイケボタルの生息地である「ホタル池」と呼ばれる広さ約25㎡の池



ホタルが生育出来る環境や農業用水路について学ぶ機会を作るため、農業用水路を「子どもたちの遊び場」「自然体験の場」と考えている。



「地域を守ろう!」をテーマに、地元の小・中学校と連携し、地域の自然や環境を守るための授業や講演会を行っている。

### 宮田ほたるの里 MAP

JR上越線の敷島駅から徒歩約15分。夏の夜には、辺りがホタルの幻想的な光に包まれる。



赤城町に継承される農村歌舞伎の舞台と、ホタルの舞をイメージして、会員自ら設計・建築した四阿「夕月亭(ゆうづくてい)」。会員や地域の人たちの交流の場ともなっている。



赤城町に伝わる農村歌舞伎にちなんだ「歌舞伎ポータル」は子ども会員がデザインを手掛けた。会員の名刺やホームページに使用している。



ほたる祭りでは、子どもたちがホタルやカワニナの説明を行う。勉強になり、良い経験になったとの感想が子どもたちから寄せられている。



会報誌は子どもたちの感想文や写真、ホタルのクイズなどを取り入れ、読みやすく、興味を引くような構成になっている。



子どもたちに食と命の大切さを学んでもらうため、尾瀬高校で行われた公開講座に会員で参加した。写真は鶏の解体を行っている様子。

ホタルを観賞する時は、懐中電灯の光を当てたり、フラッシュ撮影を行わないで下さい! ご協力よろしくお願いします。



宮田ほたるの里を守る会 星野事務局長

